
ランチョンセミナー 12

5月16日(土) 12:20～13:10

第14会場 マリンメッセ福岡 3F(会議室3)

臨床検査に関わる純水の重要性とその展望

講演者：神山清志(一般社団法人 浦和医師会メディカルセンター 統括部長)

司会：杉本清美(一般社団法人 福岡市医師会臨床検査センター 検査室 次長)

共催：メルク株式会社

近年臨床検査用自動分析装置に供給する純水が検査に様々な影響を及ぼすことが徐々に知られてきた。純水は分析装置内で圧送の媒体、洗浄、潤滑、保温など様々な目的で使用されている。装置や器具、配管材の内面を通じて試料や試薬に間接的に接触するため、純水の品質は検査の結果に影響を及ぼしかねない。臨床検査に供給する純水の精製方法も最近10年間で大きく様変わりしつつあり逆浸透膜に加えて電気イオン交換 EDI 方式や紫外線殺菌を組み合わせたタイプが主流になりつつある。従来の純水装置は逆浸透膜と再生方式のイオン交換樹脂を用いている。純水は一般的に細菌が非常に繁殖しやすく、逆浸透 - イオン交換方式で精製した純水は細菌抑制を考慮されていないため細

菌が繁殖した状態の水が分析装置に供給されていることがある。細菌の影響で急性的に分析結果に影響が及ぶこともあるし長期的な細菌の暴露により成長した菌膜(バイオフィルム)が検査に影響を及ぼすこともある。分析装置側では菌の繁殖を防ぐため定期的な薬液による殺菌洗浄なども行われているが細菌を抑制した純水を使用することにより検査結果や分析装置の安定性に関するリスクは減少することが予想される。本セミナーでは検体検査を行う臨床検査技師として基本的に知っておくべき純水の細菌汚染の実態を示し、それによって考えられる影響や具体的な細菌対策を示す。最後に CLSI C3-A4 に適合した純水装置について紹介し、純水装置の将来のあるべき姿について述べる。